

出題分析		
試験時間 120 分	配点 200 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>	
<p>【概評】</p> <p>例年通りの出題形式で、大問Ⅰ・Ⅱが各 15 問、大問Ⅲが 30 問の 3 題構成であった。大問Ⅰがドイツ語・フランス語との選択問題である点にも変更はなかった。英文の長さは大問Ⅰが 2 ページ、大問Ⅱが 2 ページ、大問Ⅲが 3 ページ弱で、全体の読解量は例年並みである。設問構成は、各大問の 3 分の 2 が英文中の空所補充問題、3 分の 1 が内容(不)一致問題であった。各大問の内容(不)一致問題は、参照すべき段落を設問文中で示した上で各段落の精読を要求する問題と、文章全体の理解を問う問題の双方を含んでおり、総合的な読解力を測る問題であったと言える。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「スペースデブリ問題への持続可能な対処法」	空所補充問題 10 問、内容(不)一致問題 5 問の出題。標準的な説明文で、本文の内容は比較的理解しやすい。内容(不)一致問題には段落の論理展開を問う問題、文章の要旨を問う問題などが含まれており、各文の役割や文章の枠組みを意識して取り組む必要があった。	標準
II	長文読解問題 「変容するサブカルチャーと若者のアイデンティティ」	空所補充問題 10 問、内容一致問題 5 問の出題。本文の語彙レベルが高く、内容がやや抽象的であるため、読解の難易度は低くない。内容一致問題には句の意味を問う問題、引用文の役割を問う問題、筆者の見解や文章の主旨をまとめる問題などがあり、解答には各文の内容を追うばかりでなく、文章全体を俯瞰する必要があった。	やや難
III	長文読解問題 「起業家に共通する資質」	空所補充問題 20 問、内容(不)一致問題 10 問の出題。本文・選択肢に難解な語句が多く難易度は高い。本文のテーマが冒頭で明示されているため、本文全体の内容にかかわる [88][89][90]などは比較的取り組みやすい問題であったが、[82][85][86]など、指示語や句・節の正確な意味を問う、ある程度の精読の能力が必要となる問題も出題された。	やや難

合格のための学習法

慶應義塾大学総合政策学部では 1000 語を超える長文が出題されることが多いため、文章を自力で読み通す経験を積み、長文読解への抵抗感をなくしておこう。文章を読み通し、時間内に問題を解ききるためには、パラグラフごとの要旨を押さえることが重要である。また、語句補充問題の対策として、単語の学習の際、意味だけでなく語法まで確認する癖をつけておこう。単語やイディオムを例文とともに覚えれば、実践的な知識を身につけることができる。加えて、総合政策学部ではメディアやテクノロジーといった時事的、学際的なテーマからの出題が多い。様々なジャンルの英文に触れ、背景知識を知ることが有効な対策となるだろう。